

平成 30 年度

病虫害発生予察情報 第 17 号

8 月月報

北海道病虫害防除所 平成 30 年 9 月 18 日
http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『並温・多雨・寡照』ぐずついた天気が続き、多雨・寡照－

この期間の天気は、上旬は高気圧の張り出しの中となって晴れた日が多かったが、中旬以降は前線や低気圧、湿った気流などの影響で雨の降った日が多く、大雨となった日もあった。気温は中旬は平年より低かったが、月平均気温は平年並だった。降水量は中旬は平年よりかなり多く、下旬は多く、月降水量はかなり多かった。日照時間は上旬は平年より多かったが、中旬は少なく、下旬はかなり少なく、月間日照時間は少なかった。

上旬：1日は寒冷前線が通過して雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れた。2～3日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。4日は高気圧に覆われて晴れた所が多かったが、気圧の谷の影響により、日本海側南部や太平洋側西部では雨が降った。5日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、前線の影響により、日本海側南部や太平洋側西部などでは雨が降った。6日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れたが、気圧の谷の影響により太平洋側西部では雨の降った所があった。7日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れた。8日は高気圧の張り出しの中となって日本海側やオホーツク海側で晴れたが、湿った気流の影響で太平洋側では曇りで雨の降った所があった。9日は気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降った。日降水量は旭川市宮前1条で68.5mmなど。10日は低気圧を含む気圧の谷の影響で全道的に雨が降った。日降水量は新十津川町空知吉野で65.0mmなど。

中旬：11日は低気圧を含む気圧の谷の影響で全道的に雨が降った。12日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、雨の降った所もあった。13日は前線の影響により広い範囲で雨が降ったが、オホーツク海側などでは晴れた所もあった。14～15日は前線の影響で全道的に雨が降った。日降水量は15日に新得町4条で67.5mmなど。16日は低気圧や前線の影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は函館市戸井泊で124.0mmなど。17日は気圧の谷の影響で全道的に雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって日本海側や太平洋側西部では晴れた所もあった。日降水量は斜里町宇登呂で64.5mmなど。18日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れたが、オホーツク海側を中心に雨の降った所があった。19日は気圧の谷の影響により日本海側やオホーツク海側を中心に雨の降った所が多かった。20日は気圧の尾根の中となって広い範囲で晴れた。

下旬：21～22日は湿った気流や前線の影響により、大気の状態が不安定となって全道的に雨が降った。日降水量は22日に占冠で72.5mmなど。23日は高気圧の張り出しの中となって日本海側や太平洋側西部で晴れた。24日は台風第20号から変わった低気圧の影響により広い範囲で雨が降った。日降水量は知内で64.5mmなど。25日は台風第19号から変わった低気圧や前線の影響で全道的に雨が降った。日降水量は白老町森野で73.5mmなど。26日は低気圧を含む気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降った。27日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、気圧の谷や湿った気流の影響で雨の降った所もあった。28～29日は湿った気流や気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、宗谷地方などでは晴れた。30～31日は低気圧を含む気圧の谷の影響で全道的に雨が降った。日降水量は30日に登別市札内町で85.0mmなど。

気候表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	-0.9	並	147	か多	83	少
日本海側10地点平均	-1.1	低	158	か多	80	少
オホーツク海側4地点平均	-1.2	低	147	多	91	並
太平洋側8地点平均	-0.6	並	134	多	83	少

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生量 やや多 <7月5日付け注意報第5号>

予察田の「きらら397」における葉いもちの発生量は、岩見沢市、北斗市では平年より多く、比布町では平年より少なかった。

一般田における8月3半旬の巡回調査では、発生が認められなかった。

予察田における水稻の葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	25.0	14.3	27.0	16.5	46.0	18.6	7
	ななつぼし	30.0	30.7	43.0	32.9	52.0	38.8	7
比布町	きらら397	25.0	35.8	25.0	37.8	25.0	42.9	10
	ななつぼし	26.0	-	28.0	-	30.0	-	-
北斗市	きらら397	36.0	16.2	38.0	17.4	38.0	18.2	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)比布町の「ななつぼし」は平年値なし

一般田における水稻の葉いもち巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)		
			8月3半旬					8月3半旬		
			本年	前年				本年	前年	
空知	本所	5	0	0	渡島	本所	3	0	0	
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	0	0
	南西部	3	0	0			北部	2	0	0
	中空知	4	0	0		上川	本所	8	0	0.16
	北空知	7	0	0			富良野	2	0	0
石狩	本所	5	0	0	大雪		4	0	0	
	北部	7	0	0	士別	2	0	0		
後志	本所	4	0	0	名寄	3	0	0		
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	5	0	0	
日高	西部	3	0	0		南留萌	3	0	0	

いもち病（穂いもち・節いもち） 発生期 並 発生量 やや多

予察田の「きらら397」における枝梗いもちの初発期は、比布町、北斗市では平年よりやや早く、岩見沢市では平年並だった。首いもちの初発期は、北斗市では平年よりやや早く、岩見沢市では平年よりやや遅く、比布町では平年より遅かった。節いもちの初発期は、岩見沢市、北斗市では平年並で、比布町では平年より遅かった。

穂いもちの発生量について、岩見沢市の「きらら397」では枝梗いもちが平年より多く、首いもちが平年よりやや多かった。岩見沢市の「ななつぼし」では枝梗いもちが平年よりやや多かったが、首いもちが平年よりやや少なかった。比布町では枝梗いもち、首いもちともに平年より少なかった。北斗市では枝梗いもち、首いもちともに平年より多かった。節いもちの発生量は、岩見沢市の「きらら397」では平年よりやや多く、「ななつぼし」では平年並であった。比布町では平年より少なく、北斗市では平年よりやや多かった。

一般田における8月6半旬の巡回調査では、石狩地方の1地点で穂いもちの発生が認められた。

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの初発期

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		枝穂いもち		首いもち		本年	平年	
		本年	平年	本年	平年			
岩見沢市	きらら397	8月17日	8月15日	8月22日	8月17日	8月20日	8月22日	7
	ななつぼし	8月15日	8月14日	8月20日	8月17日	8月17日	8月18日	7
比布町	きらら397	8月3日	8月6日	8月17日	8月9日	8月18日	8月12日	10
	ななつぼし	8月13日	-	8月17日	-	8月20日	-	-
北斗市	きらら397	8月6日	8月11日	8月13日	8月16日	8月24日	8月25日	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)比布町の「ななつぼし」は平年値なし

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		発病枝穂率(%)		発病首率(%)		発病茎率(%)		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	40.1	22.1	15.6	9.9	10.6	7.5	7
	ななつぼし	36.6	25.6	25.9	30.9	19.0	18.3	7
比布町	きらら397	13.3	28.3	1.0	28.7	0.8	7.4	10
	ななつぼし	13.6	-	3.1	-	0.2	-	-
北斗市	きらら397	33.2	16.7	59.6	14.3	8.4	6.0	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)比布町の「ななつぼし」は平年値なし

一般田における水稻の穂いもち巡回調査結果

普及センター		地点数	発病穂率(%)		普及センター		地点数	発病穂率(%)		
			8月6半旬					8月6半旬		
			本年	前年				本年	前年	
空知	本所	5	0	0	渡島	本所	3	0	0	
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	0	0
	南西部	3	0	0			北部	2	0	0
	中空知	4	0	0		上川	本所	8	0	0.03
	北空知	7	0	0			富良野	2	0	0
石狩	本所	5	2.0	0	大雪		4	0	0	
	北部	7	0	0	士別	2	0	0		
後志	本所	4	0	0	名寄	3	0	0		
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	5	0	0	
日高	西部	3	0	0		南留萌	3	0	0	

2. 紋枯病 発生期 やや早 発生量 並

予察田における初発期は、北斗市で平年より早く、岩見沢市で平年並であった。発生量は岩見沢市、北斗市ともに平年並であった。

予察田における水稻の紋枯病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	初発期		発病株率(%)		発病茎率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	8月16日	8月15日	72.0	49.4	5.1	12.1	18.0	14.8	7
北斗市	きらら397	7月26日	8月5日	20.0	33.5	16.0	16.7	17.0	15.7	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

3. 葉しょう褐変病 発生量 少

岩見沢市、比布町の予察田における発生は、認められなかった。

予察田における水稻の葉しょう褐変病発生状況(8月2半旬)

地点	品種名	発病株率(%)		発病莖率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0	37.7	0	3.4	0	11.9	7
比布町	きらら397	0	-	0	-	0	-	-

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)比布町は平年値なし

4. ウンカ類 発生量 やや少

ヒメトビウンカの予察灯による誘殺数は、長沼町、比布町および北斗市のいずれの地点でも平年より少なかった。予察田におけるすくい取り成虫数は、長沼町では平年並、比布町、北斗市では平年より少なかった。セジロウンカの予察灯による誘殺数は、比布町、北斗市では平年より少なかった。長沼町では誘殺が認められなかった。予察田におけるすくい取り成虫数は、比布町、北斗市で平年並であった。長沼町では捕獲がみられなかった。

一般田における8月3半旬の巡回調査によると、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数は、全78調査地点中最多でも150頭であり、吸汁害が発生する密度(成虫:1,800頭、または幼虫:900頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り成虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り成虫数 (20回振り)×5日分換算値					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	186	188.3	60	330.5	2	6.1	0	7.5	60	108.8	2.5	7.3
2半旬	98	186.5	3	384.9	6	5.2	27.5	10.6	10	67.5	2.5	13.5
3半旬	29	217.5	56	138.5	7	6.4	75.0	37.2	15	73.8	2.5	10.0
4半旬	16	175.8	14	194.7	3	30.1	22.5	34.1	45	124.4	7.5	14.8
5半旬	168	303.4	28	1041.4	6	13.4	202.5	121.4	30	646.1	20.0	25.5
6半旬	53	260.4	1	2242.1	5	312.0	80.0	179.7	65	1042.1	27.5	52.8
平年数	10		10		10		6		10		10	

セジロウンカ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り成虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り成虫数 (20回振り)×5日分換算値					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	3.4	0	3.6	13	34.1	0	7.7	0	0.3	0	6.6
2半旬	0	30.3	0	27.0	15	68.6	0	1.5	0	2.8	30	15.8
3半旬	0	13.8	0	34.6	66	103.1	0	2.1	0	11.9	15	36.0
4半旬	0	40.2	20	21.2	3	75.0	0	2.4	0	5.4	22.5	22.0
5半旬	0	20.8	64	54.7	79	252.8	0	4.0	10	9.6	30	18.3
6半旬	0	6.7	15	33.0	50	11.9	0	7.9	25	17.1	27.5	24.8
平年数	10		10		10		6		10		10	

巡回調査によるヒメトビウンカ成幼虫の20回振り水田すくい取り成虫数

普及センター	地点数	8月3半旬		普及センター	地点数	8月3半旬		
		本年	前年			本年	前年	
空知	本所	5	0	渡島	本所	3	2.3	
	南東部	2	1.5		檜山	本所	2	0
	南西部	3	2.3			北部	2	4.0
	中空知	4	1.3		上川	本所	8	4.1
	北空知	7	7.6			富良野	2	0
石狩	本所	5	3.2	大雪		4	40.3	
	北部	7	0	士別	2	0		
後志	本所	4	3.3	名寄	3	0		
胆振	東胆振	4	4.3	留萌	本所	5	0.4	
日高	西部	3	0		南留萌	3	0	

5. アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生量 やや少

予察灯による誘殺数は、長沼町、比布町、北斗市のいずれの地点においても平年より少なかった。予察田におけるすくい取り成虫数は、北斗市では平年よりやや多く、長沼町では平年並であった。比布町では捕獲が認められなかった。

一般田における8月3半旬の巡回調査（全78地点）によると、水田すくい取りによる成幼虫の捕獲数が、発生モニタリングによる追加防除の基準である捕獲数2頭（「きらら397」）以上となったのは、石狩地方の4地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り成虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り成虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	360	552.7	6	26.1	11	87.6	0	1.1	0	0.8	2.5	3.0
2半旬	228	472.0	2	28.3	6	48.3	5.0	2.2	0	0	5.0	1.8
3半旬	210	337.2	13	27.6	83	38.2	7.5	4.9	0	0	2.5	0.8
4半旬	57	244.2	11	7.3	23	32.1	7.5	3.2	0	0	2.5	0.5
5半旬	100	183.0	5	16.6	26	69.9	2.5	7.1	0	0	0	1.8
6半旬	27	97.2	4	17.0	9	40.2	0	5.9	0	1.4	0	0.8
平年数	10		10		10		6		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成・幼虫の20回振り水田すくい取り成虫数

普及センター	地点数	8月3半旬		普及センター	地点数	8月3半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	本所	5	0.2	0.2	渡島	本所	3	0	0
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	0
	南西部	3	1.0	0.7	北部		2	0	0
	中空知	4	0	0	上川	本所	8	0.3	0
	北空知	7	0	0		富良野	2	0	0
石狩	本所	5	1.4	0		大雪	4	0	0
	北部	7	0.4	1.3	士別	2	0	0	
後志	本所	4	0	0	名寄	3	0	0	
胆振	東胆振	4	0.3	0	留萌	本所	5	0	0
日高	西部	3	0	0		南留萌	3	0	0.3

6. フタオビコヤガ 発生量 少

予察灯による誘殺数は、長沼町、比布町で平年より少なかった。北斗市では誘殺が認められなかった。第2～3回幼虫による予察田の被害葉率は、比布町、北斗市で平年より低かった。長沼町では被害が認められなかった。

フタオビコヤガ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における被害状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	6	195.7	4	489.8	0	59.2	0	5.3	0.3	6.9	0	0.1
2半旬	11	314.5	1	233.1	0	26.7	0	5.3	0.5	7.9	0.1	0.1
3半旬	14	218.6	8	161.8	0	8.4	0	5.4	0.3	9.5	0	0.2
4半旬	6	49.2	1	51.6	0	2.8	0	5.6	0.4	12.2	0.1	0.1
5半旬	6	15.9	1	13.2	0	3.3	0	6.9	0.5	14.8	0	0.3
6半旬	2	10.8	0	17.5	0	3.4	0	6.5	1.5	16.9	0	0.3
平年数	10		10		10		6		10		10	

B. とうもろこし

1. アワノメイガ 発生量 少

北斗市におけるフェロモントラップによる誘殺数は平年より少なかった。

フェロモントラップによるアワノメイガ成虫の誘殺数

月・半旬	北斗市	
	本年	平年
8月1半旬	0	0.3
2半旬	0	1.6
3半旬	3	1.9
4半旬	1	2.5
5半旬	1	11.6
6半旬	4	7.7

注) 平年数は10年

C. 豆類

1. べと病 (大豆) 発生量 少

長沼町の予察ほにおける発生量は、平年より少なかった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	0.3	27.0	1.3	29.6	15.0	31.7	10

2. わい化病 (大豆) 発生量 やや少

予察ほの大豆におけるわい化病の発病株率は、長沼町で平年より低く、訓子府町で平年よりやや高かった。

予察ほにおける大豆のわい化病の発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	発病株率(%)		平年数
		本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	29.0	48.2	10
訓子府町	トヨコマチ	52.0	41.4	10

3. 菌核病 (菜豆) 発生量 やや少

芽室町の予察ほにおける菜豆の菌核病の発生量は、平年よりやや少なかった。

予察ほにおける菜豆の菌核病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	3.5	12.6	7.6	17.0	17.8	19.4	10

4. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生量 やや少

長沼町の予察ほ（小豆）における灰色かび病の発生量は、平年よりやや少なかった。芽室町の予察ほ（菜豆）における灰色かび病の発生量は、平年よりやや少なかった。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査では、小豆の灰色かび病の発病は胆振、上川、オホーツク、十勝地方において認められた。

予察ほにおける小豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	0.5	2.5	0.5	4.3	2.0	4.7	10

予察ほにおける菜豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	2.3	14.9	5.9	19.1	15.1	23.3	10

一般ほにおける小豆の灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			8月3半旬					8月3半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	本所	2	0	0	留萌	本所	1	0	0
石狩	本所	2	0	3.0	網走	本所	2	4.0	5.0
後志	本所	2	0	0		網走	2	0	2.5
胆振	本所	2	0	0		美幌	3	0	0
	東胆振	3	1.0	3.3	十勝	本所	3	2.7	1.7
檜山	本所	2	0	45.0		東部	6	4.3	0
	北部	1	0	0		東北部	4	0	7.0
上川	富良野	1	0	0		北部	3	3.3	1.3
	大雪	3	0.7	0	西部	3	0.7	1.3	
	士別	2	0	40.0					

5. マメシクイガ 発生期 やや遅 発生量 やや少

フェロモントラップによる成虫の誘殺数は、比布町、北斗市、芽室町、訓子府町で平年並、長沼町では平年より少なかった。初誘殺日は、北斗市、訓子府町で平年よりやや早く、長沼町、芽室町で平年並、比布町では平年よりやや遅かった。

予察ほの大豆における産卵初発期は、長沼町では平年より遅く、芽室町では平年よりやや遅かった。産卵数は、芽室町では平年よりやや少なく、長沼町では平年より少なかった。

マメシクイガのフェロモントラップによる誘殺数と初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	3	22.2	51	49.4	2	1.4	44	11.2	2	2.1
2半旬	8	32.2	38	45.1	3	10.2	19	25.2	4.7	2.3
3半旬	2	38.3	9	17.7	7	11.7	24	21.5	5.3	7.6
4半旬	1	25.4	6	5.6	7	17.2	13	17.8	6.0	8.2
5半旬	0	19.3	1	2.9	18	15.2	7	9.7	1	4.8
6半旬	0	4.1	0	0.9	15	9.6	7	2.7	5	3.2
初誘殺日	7月25日	7月25日	7月20日	7月17日	8月3日	8月7日	7月27日	7月26日	8月2日	8月6日
平年数	9		7		8		9		7	

予察ほの大豆におけるマメシクイガの産卵状況

月・半旬	長沼町		芽室町	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	4.8	-	1.8
2半旬	0	17.3	0	10.9
3半旬	0	24.6	12	23.1
4半旬	4	31.7	26	32.6
5半旬	10	26.8	23	16.4
6半旬	0	9.4	4	3.8
初発期	8.IV	8.II	8.III	8.II
平年数	10		10	

注1) 10株あたりの卵数

注2) 品種は「トヨムスメ」

6. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 並

予察ほ大豆の食害程度は、長沼町では平年よりやや低く、訓子府町では平年よりやや高かった。小豆の食害程度は、長沼町では平年並、訓子府町では平年よりやや高かった。

予察ほにおける大豆および小豆の食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	34	42.0	28	28.7	9	19.9	15	14.1
2半旬	35	47.3	34	29.3	9	20.7	18	17.2
3半旬	37	49.5	43	29.8	9	22.7	22	18.2
4半旬	37	50.9	47	29.3	16	22.6	24	20.1
5半旬	40	52.3	47	29.2	20	23.6	28	21.1
6半旬	40	52.7	48	31.2	22	23.6	30	21.6
平年数	10		10		10		10	

D. ばれいしょ

1. 疫病 発生量 並

＜7月5日付け注意報第6号＞

予察ほの「とうや」における疫病の発生量は、長沼町、北斗市では平年より多く、芽室町では平年並であった。訓子府町では発生が認められなかった。

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月1半旬		8月3半旬		8月5半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	とうや	97.0	53.4	100	62.9	100	62.9	10
	スノーマーチ	39.0	48.6	74.0	61.1	100	67.7	9
北斗市	とうや	100	62.0	100	62.6	-	-	10
芽室町	とうや	100	90.0	100	90.0	100	90.0	10
	男爵薯	100	90.0	100	90.0	100	90.0	10
	スノーマーチ	98.0	88.9	100	88.9	100	88.9	10
	紅丸	95.5	90.0	100	90.0	100	90.0	10
訓子府町	とうや	0	89.2	-	89.2	-	83.3	10
	スノーマーチ	0	63.6	0	81.6	-	81.6	9

注) -: 茎葉の黄化、枯凋により調査不能

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおいてジャガイモヒゲナガアブラムシは、長沼町、芽室町、比布町いずれの地点においても発生が認められなかった。ワタアブラムシの発生量は、訓子府町では平年よりやや少なかった。長沼町、芽室町では発生が認められなかった。モモアカアブラムシは、いずれの地点も発生が認められなかった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.3	0	1.6	0	0.6	0	2.6	0	0.1	27.0	33.4
2半旬	0	0	0	0.3	0	0.2	0	0.4	0	0	24.0	31.2
3半旬	0	0	0	0	-	0.1	0	1.5	0	0	-	50.0
4半旬	0	0	0	0	0	0.2	0	0.9	0	0.2	1.5	43.6
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 品種は「スノーマーチ」

注2) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。

注3) -は未調査。

E. てんさい

1. 褐斑病 発生量 並

<7月5日付け注意報第4号>

予察ほにおける発生量は、長沼町および芽室町で平年並、訓子府町では平年より少なかった。

一般ほにおける巡回調査の結果では、全道的に発生は認められたが、発病株率が50%を超えたほ場は認められなかった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ライエン(HT-39)	9.6	10.1	17.6	21.6	42.8	35.1	3
	あまいぶき	17.6	19.6	22.8	37.6	58.4	57.6	8
芽室町	リッカ	16.4	16.3	18.4	23.2	26.8	31.6	3
	あまいぶき	24.8	26.5	27.2	35.6	42.4	53.3	6
	スタウト	12.8	17.7	21.2	24.4	32.4	24.4	8
訓子府町	リッカ	4.4	20.1	13.6	34.1	26.4	52.8	9

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			8月3半旬		8月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	2.0	4.0	2.0	4.0
石狩	本所	4	1.0	0.7	3.8	19.0
後志	本所	3	0	0	0	2.0
胆振	本所	4	5.0	0.8	6.3	0.5
	東胆振	3	6.0	2.3	2.0	7.5
上川	富良野	3	0	0	0	0.7
	大雪	3	0	0	1.0	1.0
	士別	1	0	1.0	0	0
	名寄	2	0	0	0	0
網走	本所	10	3.2	1.6	4.3	4.6
	清里	3	0.3	0.7	0	3.0
	網走	2	2.5	0	0.5	3.0
	美幌	5	1.8	2.8	2.4	5.8
	遠軽	9	7.8	13.0	7.3	15.7
十勝	本所	5	0.2	5.2	0.6	5.0
	東部	6	0.7	1.7	0.5	25.7
	東北部	4	9.0	40.3	8.0	43.3
	北部	3	0	0.3	1.3	0.3
	西部	3	0.7	0.3	0	5.0
	南部	3	0	0	7.3	1.7

2. ヨトウガ（第2回） 発生期 並 発生量 並

予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町、北斗市、訓子府町で平年並、比布町、芽室町では平年よりやや遅かった。誘殺数は、長沼町、比布町で平年よりやや多く、北斗市、芽室町、訓子府町では平年並であった。

予察ほにおける産卵初発期は、長沼町、訓子府町では平年よりやや早く、芽室町では平年よりやや遅かった。食害程度は、長沼町、芽室町では平年並、訓子府町では平年よりやや高かった。

一般ほにおける8月6半旬の巡回調査によると、全道的に前年より被害株率が高く、被害株率が50%以上となったほ場は、後志、上川、十勝地方の各々1地点で認められた。

ヨトウガ成虫の予察灯による誘殺数と第2回初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.4	0	0.4	0	0.4	0	0.1	0	0.2
2半旬	8	1.5	3	0.3	2	0.3	0	0.2	1	1.1
3半旬	3	2.8	6	1.2	0	0.1	0	0.8	1	1.5
4半旬	0	1.9	1	1.1	0	0.2	2	1.4	1	1.0
5半旬	2	1.6	0	0.8	0	0.3	0	1.3	0	1.4
6半旬	2	1.4	0	0.6	0	0.1	1	0.8	1	1.3
初誘殺日	8月6日	8月7日	8月8日	8月5日	8月6日	8月7日	8月17日	8月13日	8月10日	8月12日
平年数	10		9		10		10		10	

予察ほにおけるヨトウガの産卵および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	1	0.6	0	0.4	0	0	62.5	62.3	30	37.0	33	32.6
2半旬	0	2.4	0	0.9	0	0.4	64.5	60.1	34	37.6	35	34.1
3半旬	0	3.8	0	1.8	4	0.4	62.5	59.9	30	37.2	39	33.1
4半旬	0	3.4	1	2.4	0	0.6	64.5	54.4	33	37.3	42	33.6
5半旬	1	3.6	2	2.3	2	0.3	48	52.0	31	37.9	44	35.4
6半旬	1	1.8	0	1.3	1	0.8	57.5	54.4	33	38.0	46	37.0
初発期	8. I	8. II	8. IV	8. III	8. III	8. IV						
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及センター		地点数	8月6半旬		普及センター		地点数	8月6半旬						
			本年	前年				本年	前年					
空知	南東部	1	6.0	4.0	網走	本所	10	5.1	7.1					
								石狩	本所	4	12.0	10.0	3	5.7
後志	本所	3	38.0	4.0				網走	2	7.0	0			
胆振	本所	4	6.0	4.5				美幌	5	1.6	0			
								東胆振	3	7.3	1.0	遠軽	9	14.1
上川	富良野	3	30.0	5.7				十勝	本所	5	0	1.2		
	大雪	3	11.3	11.3							東部	6	4.3	0.2
	士別	1	8.0	5.0							東北部	4	23.0	7.9
	名寄	2	23.0	0							北部	3	5.0	0
					西部	3	1.7				4.0			
					南部	3	0				0.7			

F. あぶらな科野菜

1. 軟腐病（だいこん） 発生量 やや少

長沼町の予察ほにおけるだいこんの軟腐病の発生量は、平年よりやや少なかった。

予察ほにおけるだいこんの軟腐病発生状況

地点	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
			8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	耐病総太り	初夏播き	0	3.3	2.3	7.4	6.0	8.0	10
	耐病総太り	夏播き	-	-	0	0	0	0.6	10

注) - : 調査時期外

2. モンシロチョウ 発生量 やや少

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町では平年より少なく、北斗市では平年よりやや少なかった。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査によると、モンシロチョウが優占種である地点は認められなかった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウの発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	1.6	24	46.8
2半旬	1	13.7	20	52.0
3半旬	5	20.1	43	89.6
4半旬	4	22.8	31	31.0
5半旬	8	19.0	23	20.2
6半旬	13	16.5	16	7.2
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

3. コナガ 発生量 並

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、比布町、北斗市で平年より少なく、長沼町で平年よりやや少なく、芽室町、訓子府町では平年並であった。

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年並、北斗市では平年よりやや多かった。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査によると、コナガが優占種である地点が多かった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	23	87.4	1	10.7	28	52.3	2	1.2	1	2.1
2半旬	46	85.7	2	6.3	4	30.5	1	2.6	0	1.8
3半旬	55	59.4	3	9.7	17	21.9	1	1.6	4	1.3
4半旬	25	56.1	1	2.3	5	26.6	2	1.2	2	1.7
5半旬	34	30.0	0	1.0	12	13.6	3	0.7	0.7	1.7
6半旬	9	33.0	1	1.3	3	7.9	4	1.0	0.3	1.4
平年数	10		3		10		10		10	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺。比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺。訓子府町は雑草地。

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	2.0	4	49.6
2半旬	2	6.6	31	33.3
3半旬	9	18.6	67	34.8
4半旬	9	21.6	35	4.3
5半旬	23	17.5	19	3.2
6半旬	21	9.5	19	6.9
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

4. ヨトウガ (第2回) 発生量 並

予察ほのキャベツにおける卵塊は、長沼町、北斗市では認められなかった。

予察灯による第2回成虫の誘殺数は、長沼町では平年よりやや多く、北斗市は平年並であった(てんさいの項参照)。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査において、ヨトウガが優占する地点はなかった。

G. りんご

1. 黒星病 発生量 多

<4月10日付け注意報第2号>

予察園における発生量は、長沼町(無防除)および余市町B(慣行防除)で平年より多かった。余市町C(慣行防除)でも発生が認められた。

巡回調査の報告によると、一般園においても発生が認められ、後志、渡島地方では発病葉率が30%を超える多発園地も認められた。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	59.7	45.2	41.1	22.2	9
	つがる	60.7	36.0	34.2	16.2	9
余市町B	つがる	33.6	2.1	-	-	10
余市町C	王林	1.3	-	-	-	-

注1)長沼町は8月6半旬、余市町は8月第5週のデータ

注2) - :調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			8月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	3	15.7	15.7
胆振	本所	1	3.0	0
渡島	本所	4	48.4	10.0
留萌	南留萌	1	0	9.5

2. 斑点落葉病 発生量 やや少

長沼町の予察園(無防除)の「王林」における発生量は、平年よりやや少なかった。余市町の予察園(慣行防除)においても発生が認められた。

一般園における巡回調査の報告によると、後志、渡島および留萌地方の感受性品種(デリシヤス系等)で発生が認められた。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	2.65	4.58	0.03	0.10	8
	王林(徒長枝)	4.00	4.29	0.05	0.08	8
余市町C	王林(徒長枝)	2.00	-	-	-	-

注1)長沼町は8月6半旬、余市町は8月5週目のデータ

注2) - :調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			8月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	3	2.8	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	1.3	1.0
留萌	南留萌	1	34.5	22.4

3. ハマキムシ類 発生期 遅 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップでの初発期は、リンゴコカクモンハマキ(第2回)については、長沼町では8月20日(平年:8月13日)と平年より遅く、余市町Aでは8月25日(平年:8月16日)、余市町Bでは8月25日(平年:8月8日)と平年より遅かった。リンゴモンハマキ(第2回)については、長沼町で8月15日(平年:8月9日)と平年より遅かった。余市町A、同町Bでは誘殺が認められなかった。

リンゴコカクモンハマキの誘殺数は、いずれの地点においても平年より少なかった。リンゴモンハマキの誘殺数は、長沼町では平年よりやや少なかった。

幼虫による被害新梢率は、長沼町(平年:3.1%)、余市町A(平年:0.2%)および同町B(平年:0.1%)のいずれの地点も0%で、被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、札幌市、壮瞥町では平年並であったが、その他の地点では平年より少なかった。伊達市では誘殺が認められなかった。リンゴモンハマキの誘殺数は、石狩市では平年より多く、札幌市、伊達市では平年よりやや多く、壮瞥町では平年並、岩見沢市、七飯町では平年より少なかった。

予察園におけるハマキムシ類のフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.3	0	0.4	0	1.5	3	2.7	0	0.5	0	0.2
2半旬	0	1.4	0	1.5	0	3.5	0	6.1	0	0.4	0	0.2
3半旬	0	2.9	0	1.7	0	2.9	2	17.9	0	0	0	0.3
4半旬	1	1.9	0	1.3	0	3.8	11	32.2	0	0.1	0	0.2
5半旬	0	2.0	1	0.8	0.5	3.5	20	43.7	0	0.1	0	0.3
6半旬	0	0.8	1	1.8	1	2.8	50	44.3	0	0.4	0	0.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.2	0	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.3	0	0.5
2半旬	0.5	0.8	0	0.7	0	0.1	0	0.4	0	0.2	0	1.0	0	2.6
3半旬	0	0.7	0	1.0	0	0.5	0	1.0	0	0.5	0	0.9	0	1.4
4半旬	0	0.8	2.4	1.6	0	0.1	0	1.2	0	0.2	0	0.7	0	1.3
5半旬	0	0.9	4.0	2.7	1.0	0.8	0	1.7	0.7	0	1.0	1.1	0	0.6
6半旬	0	1.3	3.3	2.4	0	1.3	0	2.4	1.3	0.7	1.0	2.0	1	0.2
平年数	10		10		7		10		10		9		7	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	1.3	0.8	13.8	3.7	37.0	2.4	0	2.4	0	0.2	0	0.5
2半旬	0.3	0.5	8.3	1.5	9.0	1.5	0	1.8	0	1.4	0	0.8
3半旬	0	0.9	0	0.7	0	0.9	0.9	3.0	0.1	1.7	0	1.7
4半旬	0	2.3	4.2	1.6	0	1.1	4.3	9.3	0.7	0.9	0	3.5
5半旬	0.4	3.7	7.0	4.1	1.0	2.4	20.9	19.7	4.8	1.3	1.3	6.3
6半旬	1.6	6.3	13.1	14.3	0	7.5	78.0	33.8	4.8	2.3	0.8	12.5
平年数	10		10		7		10		10		9	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

4. モモシクイガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、余市町Bでは平年並で、長沼町および余市町Aでは平年よりやや少なかった。長沼町の予察園における産卵数は平年より少なかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、札幌市で平年より多く、岩見沢市、壮瞥町、七飯町では平年並、伊達市、旭川市では平年より少なかった。

予察園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	143	134.9	49.2	71.4	52.5	55.0	43	107.9	78	95.4
2半旬	43	53.9	24.1	54.8	37	40.5	22	61.9	80	99.8
3半旬	2	33.0	17.8	43.5	33.3	40.6	29	38.6	72	99.8
4半旬	1	21.1	36.4	38.8	33.8	35.7	30	57.1	90	100.0
5半旬	0	21.6	21.6	21.9	27	28.9	6	69.6	91	100.0
6半旬	2	22.6	18.5	20.7	28	41.3	19	63.1	100	100.0
平年数	10		10		10		10		10	

注) 産卵数は100果調査。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	27.5	11.7	11.9	7.7	22.1	27.6	11.4	4.2	98.3	74.6	25.8	60.3
2半旬	9.0	11.8	8.7	4.8	15.7	17.0	7.1	5.0	35.7	88.2	24	40.3
3半旬	2.5	7.0	3.9	4.1	9.4	21.8	3.7	6.4	80.0	76.3	28	32.1
4半旬	1.5	3.2	15.7	3.5	1.4	26.6	1.4	6.8	53.6	43.6	4	17.0
5半旬	0.5	2.1	23.5	4.7	9.6	33.1	9.0	7.7	52.4	29.7	3	23.0
6半旬	1.0	1.6	28.8	4.9	17.2	39.3	20.8	9.9	63.0	27.4	9	21.7
平年数	10		10		10		10		9		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

5. ハダニ類 発生量 少

予察園におけるリンゴハダニの発生量は、余市町Bでは平年より少なかった。長沼町、余市町Aでは、発生が認められなかった。ナミハダニの発生量は、余市町Bで平年より多く、余市町Aでは平年より少なかった。長沼町では発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.4	-	2.5	-	0.5	0	0.4	-	5.0	-	0.2
2半旬	0	1.1	0	1.0	0	2.4	0	4.4	0	7.1	6	4.9
3半旬	0	1.9	-	0.7	-	0.7	0	1.3	-	0.8	-	8.3
4半旬	0	1.3	0	0.7	0	4.0	0	0.4	0	5.3	143	36.1
5半旬	0	2.5	0	0.7	0	5.7	0	2.6	9	2.7	2	4.8
6半旬	0	2.5	0	0.2	1	1.0	0	1.6	1	1.7	31	4.0
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) 30葉あたりの寄生虫数。

注3) -は未調査。

6. キンモンホソガ 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町では平年よりやや多く、余市町Aおよび同町Bでは平年より少なかった。予察園における被害葉率は、長沼町では平年よりやや低く、余市町Aは平年より低かった。余市町Bでは被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、増毛町では平年並で、その他の地点ではいずれも平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数および被害葉率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	25	12.7	55	244.2	8.3	243.4	7	7.5	0	0.5	0	0.3
2半旬	38	19.7	155	204.3	20.2	244.0	11	8.2	0.1	1.0	0	0.4
3半旬	20	22.4	180	360.7	21	409.8	1	14.1	-	0.7	-	0.3
4半旬	57	30.1	237	596.0	13	358.2	6	17.6	0.1	1.6	0	0.5
5半旬	94	38.2	157.9	261.3	9.5	249.0	6	20.5	0.1	0.9	0	0.1
6半旬	87	71.5	147.9	287.0	21.0	89.5	9	22.9	0.1	1.2	0	0.6
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0.9	75.6	0.6	0.9	0	23.4	4.3	61.2	6.4	267.6	1.4	230.1	0	0.5	32.5	41.5
2半旬	0.2	95.8	0.4	1.2	0	38.9	3.0	66.8	2.6	295.4	3.6	431.7	1	2.7	45	85.2
3半旬	3.2	122.5	0	2.5	0.8	49.9	2.0	66.5	0.1	336.9	5.7	277.5	0	2.0	84.2	145.6
4半旬	1.3	134.0	1.2	3.1	2.2	43.0	1.4	53.3	0.7	483.5	5.3	179.3	0	1.0	125.8	165.3
5半旬	0	83.8	2.0	3.1	7.0	75.1	0.3	27.4	2.1	442.5	4.5	277.9	0	0.4	363.8	229.5
6半旬	2.0	143.5	1.9	5.5	5.0	77.4	1.0	26.4	2.5	286.2	3.0	259.4	1	1.2	512.7	371.8
平年数	10		10		4		10		10		8		6		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

農薬の適切な保管管理と空容器等の適正な処分に努めましょう!!

■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなりますが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められていますので、これを遵守してください。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしてください。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器内に農薬が残らないよう十分に除去してください。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課（TEL:011-231-4111(内線)27-838)

北海道病虫害防除所（TEL0123-89-2080）

または最寄りの総合振興局・振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。